

力がほしい

□ ……先生、私は小さい時から不幸で、今日まで苦しい人生を渡ってきました。家は貧しくて教育さえじゅうぶんに受けられなかったのです。それに親も早く死んでしまいました。今日まで苦しみ苦しみ生きてきました。……………

△ さつきからの詳しいお身の上話を聞いて、まことに同情にたえませぬ。あなたのような不幸な方があるのを聞いた時、何と言つていいかわかりませぬ。

□ それに私は体も弱いのです。もう人生がいやになりました。いつそ死のうと思つてもみませんが、それもできませぬ。どうしていいかわからぬのです。そのまま運命だと諦めよと言われてもそれもできぬのです。

△ 諦めが何になりましょうぞ。人間は不幸が続いたり、あまり苦しみにのぞみ続けると、運命を信じてきます。運命信者になることは恐ろしいことでもあります。けつしあきらめてはならぬのです。

□ 私も今日まで心の内は血みどろになつて歩みつづけてきました。けれども、もうその力もつきはててしまいそうになつてきました。力がほしいと思ひます。

△ そうです。弱い者にほしいのは力です。親鸞聖人も力を求められました。あなたも力を求めねばなりません。

□ どうしたら力を得ることができましょう。私はこのまま死んでいくのではないかと思ひます。

△ それが恐ろしいあきらめです。求めて求めて行くのです。力は得られます。どうしたらよいかとの問いですが、力を得る方法は二つあります。自力と他力であります。自力とはあなたの学問や思慮をもつて、力を心の中に発見するのです。どこまでもあなた自身を信じて、いかなる時もあなたの力いっぱいを働かせて、あなたの智慧で力を産み出すのです。

□ 先生、それができるなら。こうも荒んだ私にはならないのです。今のように破産に近い心にはならぬのです。

△ そうです。だれもはじめは、自分の考えを確かなものにとります。けれども、一度はあなたのようにならなければならぬかも知れません。中にはそんなにならずにいるかも知れませんが、そんな方は小さい幸のために、人生に対する深刻な体験なしに死んでしまうでしょう。ある意味から言えば幸だと存じます。

□ 先生どうしたら力が得られます？

△ 力を生活している人に触れてその力の根源を養つてもらふのです。昔から今日まで力を求めて来た人はたくさんあります。いな、すべての人はいろいろな意味といろいろな方法で、みな力を求めているのです。そうして得た力を生活しつつさらに力を求めてゆきます。力の人の話を聞き、力の人の書物に触れて力を発見させられ、あるいは与えられるのです。これは他力だと言へばいいでしょう。とくにあなたのよ

うに自分の力がほとんどつきはてて、まさに倒れようとしている人にとつては、もうあなた自身の思考や分別では力強く立上ることはできないでしょう。この上は力を生活している人に触れて行つて新しい力を与えられることです。

□ それができましようか。

△ できますとも。じつは私もそうなのです。あなたのその姿は私の以前のそのままです。

□ 私は先生に触れて何かしら力があるように存じましたので、慕わしくなつたのです。聞かせてください。

△ あなたは仏を信じますか。

□ 先生、私はもし仏があるものなれば、こうまで私を苦しませなくてもいいと存じます。もし仏が慈悲であるならば、こんな人生について疲れきっている私を救つていてくれないのです。私は私のどこにも仏の恩寵を見出すことはできないのです。

△ それは正しい見方ではありません。それは基督教的な見方です。恩寵主義の信仰はやつぱり人間の勝手なはからいで、きつと一度はこわれねばならぬのです。あなたの考え方は正しい智慧によるものではないのです。あなたが頭に描いている仏はあなたが作っている仮想なのです。概念なのです。世の中には太平無事な幸福な時だけ役だつ仏を持つている人があります。

□ そうなのでしようか。

△ そうです。だからそのあなたの仏は今のあなたに役立たないではありませんか。それが經典仏、概念仏だからです。真仏は人間苦のどん底に体験できるのです。人間の力の尽きはてた所に生まれてくるのです。

□ そうですか。ああ私はその真仏にふれたいのです。先生！先生！どうすればいいのです。

△ あなたのその苦しみがそのまま如来の苦しみです。如来はあなたのその苦悩のどん底に血みどろに動きたもうてあります。

□ この苦悩はいつたいていどうしてできたのでしょうか。どうして私ばかりが。

△ 痛ましくても言わねばならぬ。それはあなた自身の宿業の力です。あなた自身が生んであなた自身が受けねばならぬのです。

□ 私自身の宿業ですか。

△ そうです。だれをも呪つても恨んでもならぬのです。そうして如来はそのあなた自身の作つた苦悩の中に立つて、血みどろに苦しんでいます。法蔵菩薩がそれであります。阿弥陀仏がそれであります。しかも一度は一度はと、果遂の誓いを立てて叫んでいます。

□ え！では私のこの苦しみはそのまま如来の苦しみなのですか。そうして如来は何と叫んでいるのですか。

△ 南無阿弥陀仏と叫んでいます。

□ 南無阿弥陀仏とは何ということですか。私にはその声が聞こえませぬ。

△ 「そのまま来たれ」です。「そのまま来たれ、仏にするぞ！ 汝の力を求める以前から汝の力であることを知らせん」としている真実の親なるぞ。汝のその苦悩をつきやぶつて一度は至心信樂の光明の天地に出してやる。」と叫び続けています。

□ それ聞いてえませぬ。

△ 聞こえる時があります。あなたを立ち上らせようとしてあなたの心の扉をたたいています。動いて出ようとしています。私にはそれが見えます、仏に救われた人の話を聞いておれば、み仏のおよび声はつきり信じられてきます。あなたの胸の内は救いを求める心でいっぱいです。その罪に悩み業報にさいなまされているあなたを、そのまま抱きとつて救おうとしています。あなたのたまらぬ胸の求めこそ、如来のしからしむる地獄一定の目覚めです。

□ ああ！ここが地獄一定です。地獄一定を遠くに眺めていました。どうにかしたい。

△ そのまま救われます。救いはそのままの内にあるのです。あとにかえることもできず、とどまることもできず、ただあるものは血みどろのままでも立ち上つて進む一歩だけです。そのまま永劫の地獄のかなたまで歩むのです。

□ それでは永劫の地獄であります。

△ 永劫の地獄のままが救われます。如来の本願一実の白道が開けてきます。そこに金剛力の如来は働きます。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏……無量寿、無量光の如来の願力はあなたの心中にたぎりよせて、あなたのあらゆる人間的なはからいや我執を全部粉碎しているではありませんか。あなたの今に、定められた何をつくつてもならぬのです。あなたの胸中は宿業力と如来との戦いです、この二つの力の前にあなたの小さいはからいは全部役立ちませぬ。

□ なぜ宿業力と如来との戦いだと言いますか。

△ 宿業力だけならば、そうした尊い悩みはおこらぬのです。今のあなたの胸中には宿業力と如来と二つの絶対性のもものが二つのままで、戦っています。けれども動かない罪濁の業は、そのままが如来の願力につき動かされているのです。

□ ああ、ではこのままでよかつたのですか。南無阿弥陀仏……

△ それそこに如来の声は聞こえたではありませんか。「一つには決定してふかく、自身は現にこれ罪悪生死の凡夫、曠劫よりこのかたつねに没しつねに流転して出離の縁あることなしと信ず。二つには決定してふかく、かの阿弥陀仏の四十八願は衆生を摂受したもう。疑いなく慮りなくかの願力に乗ずれば、さだめて往生を得と信ず。」との善導大師のみ言葉が味えるではありませんか。宿業に泣きながらも宿業のままが如来によつて生かされて行くのです。これからいよいよあなたの道は開かれます。精進なさいよ。

□ ありがとうございます。求めます。これからじつとしてはいられませぬ。ほんとにありがとうございます。求めます。求めます。これからじつとしてはいられませぬ。ほんとにありがとうございます。